

新潟焼山の噴火に備える

新潟焼山は1773年の噴火以降、早川流域の居住地域まで到達するような大規模な噴火は発生していませんが、たびたび小規模な水蒸気噴火が発生し、現在も山頂部からは噴気を上げている活火山です。もし、冬期の積雪時に噴火した場合には、雪が溶け、土砂と一緒に泥流となり押し寄せる場合も想定されます。火山活動とその現象を知り、噴火災害の軽減のための避難対応ができるようにしましょう。

新潟焼山の噴火警戒レベルについて

噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を5段階に区分したものです。新潟焼山では噴火警戒レベルが運用されている全国49火山の一つとして新潟焼山火山防災協議会において協議、作成したものが運用されています。火山活動が活発化したときに冷静に行動できるように確認しておきましょう。

(平成23年3月31日運用開始、令和3年2月1日改定)

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び 登山者・入山者などへの対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●規模の大きな噴火が発生し、火砕流、溶岩流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域(山頂から約7km以遠)に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。
			4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。	●火砕流、溶岩流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域(山頂から約7km以遠)まで到達するような噴火の発生が予想される。
警報	噴火警報(火口周辺)または火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。住民は通常の生活。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。	●溶岩ドームが出現するなど、火砕流、溶岩流を伴う噴火により居住地域の近くまで(山頂から概ね7km以内)重大な影響を及ぼすことが予想される。 ●山頂から概ね4km以内に大きな噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。
			2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	想定火口域周辺あるいは想定火口域内への立入規制等。住民は通常の生活。	●山頂から概ね2km以内に大きな噴石を飛散させる噴火が発生、または予想される。 ●山頂から概ね1km以内(想定火口域)に影響を及ぼす噴火の発生が予想される。
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏、あるいは、火山活動の状態によっては火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて想定火口域内への立入規制等。住民は通常の生活。	●状況により、噴気活動や地震活動に若干の高まりが認められる。 ●火山活動は静穏。

※ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。

※想定火口域とは、山頂溶岩ドーム周辺(山頂から概ね半径1kmの円内)をいう。

火山に伴う主な現象

■ 大きな噴石
噴火によって火口から吹き飛ばされる直径50cm以上の噴出物で、風の影響を受けずに火口から弾道を描いて飛散して短時間で落下し、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力を持つ。

■ 火山ガス
火口や噴気孔から噴出するガスで、二酸化炭素、硫化水素、二酸化硫黄を含む。風の弱いときに噴気孔周辺の凹地などに溜まり、立ち入ると非常に危険。

■ 小さな噴石・降灰
小さな噴石(火山れき)は噴火による直径2mm以上の噴出物で、降下に数分~十数分かかり、屋内等の退避で身を守ることができる。火山灰は直径2mm未満で、広域に降下・堆積し、農作物、交通機関等に影響を及ぼす。

■ 溶岩流
マグマが火口から流れたもの。流れる速度は遅く、徒歩で逃げることもできるが、1000℃前後の非常に高温のため溶岩の流れた場所では全てのもものが焼かれてしまう。

■ 火砕流
火山灰や岩塊、軽石等の火砕物が火山ガスと混じり合い、高速で地表を流下する非常に危険な現象。温度は600℃以上の高温になることも多く、最速では時速100kmを超える。

■ 火山泥流
噴火により斜面や谷の上流に火山灰が積もった後に雨が降ると発生する。流下する速度は、時速数10kmに達する。

■ 融雪型火山泥流
噴火に伴う火砕流等が積雪を急速に溶かし、発生した大量の水が周辺の土砂等を巻き込み泥流となって、谷筋や沢沿いをはるか遠方まで高速で流下する。最速では時速60kmを超える。



新潟焼山火山監視システム